

一勝地小だより

<https://es.higo.ed.jp/ishouchi/>

第6号
R3. 10. 5発行
文責：梅本 和高



運動会がんばりました

当日は、好天に恵まれ、爽やかな風の中で運動会をスタートすることができました。本年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、観覧できる皆様に限定し、半日での開催となりました。プログラム内容も徒競走、表現活動、リレーと限定されたものでしたが、子供たちも観覧の皆様へ元気を届けようと精一杯頑張りました。保護者の皆様の応援と御支援のおかげと感謝申し上げます。



開会式でのエール交換



ゴールを目指して頑張った徒競走



1・2年生の表現活動



3・4年生の表現活動



5・6年生の表現活動



バトンを繋いだリレー

2学期後半を充実させるために

秋は、スポーツの秋、芸術の秋と何をするにも適した季節といわれます。子供たちは、これまで運動会の成功に向けて頑張ってきました。これからも、学習発表会や持久走大会などの行事が行われます。それに加えて、集団宿泊教室、修学旅行、社会科見学、生活科見学など、それぞれの学年でも様々な取組が行われます。

子供たち一人一人が見通しを持って、目標を定めて頑張ってもらいたいです。御家庭でも、ぜひ、学校の様子を話題にさせていただき、これから何をしなければならないか一緒に考えていただければと思います。

読書の秋に

現代は、テレビやスマートフォン、インターネットで、様々な情報が簡単に手に入るため、「読書離れ」が加速しても、不思議ではありません。

しかし、人間模様を楽しみながら物語をじっくり読むこと、事典などでとことん調べること等は、実に楽しいものです。

「NASAより宇宙に近い町工場」の著者、植松努氏は、その講演の中で、「他人の『どうせ無理！』という言葉には負けないことを、伝記で学んだ。」とされています。



一勝地小学校でも、10月5日（火）から22日（金）まで読書旬間の取組を行います。朝の読書、おすすめの本を紹介するブックレター、図書委員会による読書ビンゴ等の取組を行います。読書の秋に、御家庭でも、応援をお願いします。



子供達のすこやかな育ちと学びのために

■特別支援教育とは

障がいのある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する視点に立ち、子供一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習の困難を改善又は克服するために、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

さらに、特別支援教育は、障がいのある子供への教育にとどまらず、障がいの有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものです。

■特別支援学級とは

特別支援学級は、障がいがあるため通常の学級における指導では十分な成果をあげることが困難な児童生徒を対象とし、小・中学校に設けられる少人数の学級です。1学級の定員は8人で、障がい種ごとに設置されます。

種類は、知的障がい、肢体不自由、身体虚弱、弱視、難聴、その他障がいに分けられます。